

科目名	卒業制作						年度	2026	
英語科目名	Graduation production						学期	後期	
学科・学年	デザイン科 グラフィックデザイン専攻 3年次	必/選	必	時間数	360	単位数	12	種別※	実習
担当教員	井口亮/山路康隆/藤田祐子		教員の実務経験	有	実務経験の職種	グラフィックデザイナー/ 版画家			
<b>【科目の目的】</b> 学生生活の総括として、自身の専門領域における独自のテーマを設定し、調査・企画・制作・発表を通して完成度の高い成果物を生み出すことを目的とする。単に作品を制作するだけでなく、調査力・考察力・企画力・表現力・技術力・プレゼンテーション力、さらにはプロジェクト全体を管理するマネジメント力を総合的に養う。これらをバランスよく発揮することで、卒業後にデザイナーとして社会で活動を開始できる実践的基盤を築く。									
<b>【科目の概要】</b> 本科目はゼミ形式で進行する。各自が設定したテーマをもとに卒業制作を進める。毎週の授業で担当教員による進捗確認・指導を行い、適切なディレクションを受けながら制作を深化させる。9月企画発表、11月中間確認①、12月中間確認②、2月最終プレゼンテーションと展示会完成を通して成果を社会に提示し、デザイナーとしての実務力を養成する。									
<b>【到達目標】</b> 本科目の到達目標は、デザイナーとしての総合的な実践力を養うことである。A：テーマに応じた十分な調査と分析を行い、課題の本質を捉える力を育む。B：論理的かつ独創的に企画を立案し、明確なコンセプトへと展開できる力を養う。C：制作に必要な技術や表現手法を習得し、成果物に反映させる力を高める。D：プレゼンテーションや展示を通じて成果を的確に伝える力を身につける。E：全体を計画的に管理し、進捗・品質・発表に責任を持つプロジェクト遂行力を養う。これらを総合的に実践することで、バランス感覚に優れたデザイナーとして成長することを目標とする。									
<b>【授業の注意点】</b> 学生は各回ごとに必要な資料をアナログまたはデジタルデータで準備すること。調査、取材などの日程が授業と重複する場合には、実施前日までに担当教員の許可を得ること。授業時限数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	調査が深く多面的で独創的考察に至る	調査が十分で考察が的確である	必要な調査を行い一定の考察ができる	調査が不足し考察が浅い	調査が不十分で考察に至らない				
到達目標 B	独自性と実現性に優れた企画を構築できる	明確で実現性のある企画を立案できる	一定の企画を立案できる	企画が不明確で実現性に乏しい	企画をまとめることができない				
到達目標 C	高度な技術と独創的表現で完成度が高い	技術的に適切で表現も明確である	必要な技術と表現を反映できる	技術不足や表現の曖昧さが目立つ	技術的・表現的に未完成である				
到達目標 D	発表が明快で説得力があり高評価を得る	発表が的確で要点が伝わる	発表の意図は伝わるが不十分である	発表に曖昧さが多く理解しづらい	発表の準備不足で伝わらない				
到達目標 E	計画的に全体を管理し高水準で完遂できる	計画的に進め成果を仕上げられる	一定の計画管理で成果を提出できる	計画性に乏しく完成度が低い	計画管理ができず未完成である				
<b>【教科書】</b> 特になし									
<b>【参考資料】</b>									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 課題完成度50% 提出課題完成度を総合的に評価する。 リサーチ20% 制作準備と過程を評価する。 相談検証20% 制作過程で適切なディレクション受答ができたか評価する。 プレゼン10% 制作物の発表方法、内容について評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		卒業制作			年度	2026
英語表記		Graduation production			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オリエンテーション・企画発表準備	卒制の進行体制と方向性を理解する	1 授業概要説明	卒制の進め方と自分の課題を明確にできる	2	
			2 ゼミ編成・テーマ確認			
2	企画発表	調査内容と企画意図を発表する	1 企画プレゼン	調査と企画を論理的に発表できる	2	
			2 質疑応答・講評			
3	企画改善と制作計画立案	発表結果を反映して制作計画を整える	1 フィードバック反映	制作計画を具体化できる	2	
			2 計画作成			
4	制作作業①	制作を開始し初期案を具体化する	1 試作作成	初期成果を形にできる	2	
			2 進捗確認			
5	制作作業②	制作を継続し検証を行う	1 作品制作	制作を継続し改善点を見出せる	2	
			2 指導・助言			
6	制作作業③	成果を深め進捗を共有する	1 制作作業	成果を具体的に展開できる	2	
			2 中間共有			
7	中間確認①	進捗を発表し改善点を抽出する	1 発表	制作の方向を適切に修正できる	2	
			2 講評・改善指摘			
8	制作作業④	改善を反映して制作を深化させる	1 制作作業	成果の完成度を高められる	2	
			2 技術検討			
9	制作作業⑤	制作内容の充実を図る	1 制作作業	完成に向けて制作を進められる	2	
			2 進捗共有			
10	中間確認②	完成度を確認し最終調整を明確化する	1 発表	完成度を高める具体策を得られる	2	
			2 講評・修正方針決定			
11	制作作業⑥	仕上げに向けて制作を進める	1 制作作業	成果物を最終形に近づけられる	2	
			2 細部修正			
12	制作作業⑦	完成に向けて最終仕上げを行う	1 制作作業	完成度をさらに高められる	2	
			2 最終調整			
13	最終プレゼン準備	発表資料と展示計画をまとめる	1 資料作成	発表と展示の準備を整えられる	2	
			2 展示計画			
14	最終プレゼンテーション	成果を総合的に発表する	1 最終発表会	成果を的確に伝えられる	2	
			2 講評			
15	展示準備と完成	成果を展示発表する	1 展示設営	成果を展示という形で発信できる	2	
			2 展示完成確認			

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等